



消防大学校だより

消防団長科における教育訓練

消防大学校では、消防団の上級幹部に対し必要な知識及び能力を修得させることを目的として、総合教育「消防団長科」の教育訓練を実施しています。

令和4年度は、第81期（9月26日から9月30日まで）と第82期（11月7日から11月11日まで）の教育訓練を予定しており、先般実施した第81期では26名の学生が5日間（教育時間30時間）の教育訓練を修了し卒業されました。

消防団長科の受講者は、各地域において、他に本業を持ちながら消防団の災害活動及び運営に携わっておられる消防団幹部の皆様です。日常はそれぞれの仕事に携わりながら消防団の活動に従事されており、新型コロナウイルスの感染拡大が引き続き中、消防団のさらなる発展のためにと、全国各地から入校を希望され地域性の異なる方々が共に学ぶ場となりました。

講義では、近年の消防団情勢や災害事例に関する講義のほか、校外研修では日本消防協会の秋本会長による消防団幹部としてのあり方や消防団活動の多様化、体制強化についてのお話を伺い、あらためて地域が求める消防団の姿や自らの職責について認識しました。

また、消防庁では次長講話を始め、消防庁幹部による最新の消防団情勢に関する講義のほか、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に向けた重点取り組み事項に対するポイント、現在の消防団の現状による課題と対策や災害時の活動事例、さらには、加入促進や処遇改善、財政措置、安全管理等について説明がありました。

実科訓練として、指揮シミュレーションでは図上訓練等を実施し、消防団幹部が知っておくべき常備消防との連携や団員の安全管理、そして災害現場全体を見ることの重要性を理解しました。

また、実火災体験型訓練では同時期入校の救助科での訓練を見学し、火災の成長過程やフラッシュオーバー発生前の兆候など火災の性状について学びました。

そのほか、消防団等充実強化アドバイザー等の各講師からは消防団員活動や訓練、そして今後考えていかなければならない課題、また、新規団員獲得にも資するスピーチトレーニングの講義など、新しい時代に即した消防団のあり方を学びました。

研修を終えた受講者からは「各消防団の特徴や課題が聞けて良かった」「協会長、消防庁幹部からの講話を聞けて良かった」等の意見が多く挙げられ、更には学生相互の情報交換により、学生全員から「大いに相互啓発の場になった」との回答を得ました。

今後、消防大学校で修得した知識・技術をそれぞれの地域で発揮され、地域住民の負託にこたえとともに、消防団の発展に向けて大いに活躍されることを期待しています。



日本消防協会会長による講義



指揮シミュレーション訓練



実火災体験型訓練

警防科における教育訓練 ～新型コロナと社会情勢に即した教育について～

消防大学校では、専科教育として警防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させるとともに、教育

指導者としての資質を向上させることを目的に「警防科」の教育訓練を年2回実施しています。



警防科では、入校から卒業まで各講義・訓練において、ステップアップできるようカリキュラムを構築しております。

入寮前においては、リモートにて総務省消防庁の各所管から国の動向及び有事の動き並びに先進的な取組みなどを聴講することで、最新の動向を習得し、入寮早々には、座学（講義）で安全管理概論・実技指導を習得し、危険予知トレーニングを経て、安全管理を最重視した資機材の取り扱いや各種訓練を実施しています。

入校する学生は、災害現場における中・小隊長の立場が多いことから、現場指揮の概論や訓練技法などを習得し、各種指揮訓練に臨むことで、指揮者としての多角的な視野、指揮命令をより効果的に習得しています。

専科教育「救助科」と同様にカーボンニュートラル社会実現のため脱炭素化を実現する技術として有力視される「蓄電池（産業用、家庭用蓄電池、電気自動車等）」について、本格的な普及に先駆け、これらの政策のもたらす生活の変化、蓄電池の構造、メーカーが想定する火災対応、救助対応に必要な知識等についての講義を取り入れました。

また、消防にも導入が進んでいるドローンは、その運用体制や法整備の状況といった内容の講義に加え、実機を使い基本・応用の操縦訓練を実施し、ドローンの利点や操縦時の危険性、安全管理方法などを習得しています。



ドローン操縦訓練

さらに、近年発生している災害事象に合わせ、強風下における街区火災及び林野火災に対する講義及び消防力劣勢時の同時火災シミュレーション並びに実動訓練を実施しているほか、異常気象による水災害に対応すべく水防対策、航空消防の講義を始めとし、気象の基礎や異常気象の知識習得を行い、土砂災害の救助方法などは実践的に訓練を実施しています。

訓練では、小隊規模の指揮から中隊規模、現場を統制する現場最高指揮者（大隊長）や指揮隊の技術を習得し、各級指揮者としてステップアップできる形とし、複数隊活動の応用として可搬ブローアを活用した加圧排煙（PPV）での部隊指揮や多くの部隊を要する特異災害のNBC災害対応、多数傷病者対応、危険物対応を訓練し、初動の優先順位や部隊統制などを習得しています。

学科集大成となる学生企画総合訓練では、多くの訓練で習得した内容を中心に学生自らが企画立案し、進行・運営から訓練隊員までを割振りすることで管理能力の向上を目的に実施しています。

また、警防科第111期（10月～12月）からは、SDGsの取組み推進として、講義資料のペーパーレス化を検証するなど、社会情勢に即した取組みも行っております。



加圧排煙（PPV）訓練

感染対策については、コロナ禍における外出・外泊制限や班外飲食の禁止、複数学科が重複しないよう浴室時間の制限を実施するなどの感染対策は万全としていたところでしたが、警防科第110期（6月～7月）では、社会情勢のコロナ拡大に比例し、数多くの罹患者が発生したことで、隔離・療養生活が中心となりながらも、カリキュラム変更や課題研究の完全リモート化などで対応した結果、誰一人欠けることなく48名は、240時間の教育訓練を終え、無事卒業しました。



土砂災害救助訓練



学生企画総合訓練

「今できることを全力でやる」

この気持ちで教職員が一丸となり工夫を凝らしながら、卒業に導こうとする姿勢を学生も感じとってくれたことで、教職員と学生を含め全員に「絆」が生まれました。

今後の教育も、入校した知識及び技術の向上はもとより、学生同士の絆を深め、各所属に戻れるよう、教職員一同「今できることを全力でやる」の精神で、多くの方々の入校をお待ちしております。

問合せ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712